

第2回 神戸便教会 報告

2015年2月8日（日）、第2回神戸便教会を、渚中学校をお借りして実施いたしました。今回は、10名での活動となりました。

今回は西宮掃除に学ぶ会の久井さん、寝屋川の坂田さんをはじめ、東京から「日本を美しくする会」の千種さんも参加してくださいました。前日の東北震災チャリティー講演会で、大谷先生のご紹介により参加して頂くことになりました。千種さんにきていただいたことが、我々参加者にとって発見・学び・気づきの連続となりました。

簡単な自己紹介をしたあと、早速トイレ掃除の実践を行いました。今回は受験間近の3年生が使用している男子トイレをお借りしました。最初に道具の説明を木田先生にさせていただきました。スポンジの



使い方、カネヨンの注ぎ口の後始末、たわしやサンドメッシュの使い方を、丁寧に説明していただきました。自然に、さりげなく正座で説明されていました。何度も聞いている道具の説明ですが、毎回聞くたびに新鮮な気持ちになります。「道具を大切にすること」もトイレ掃除で学ぶことのひとつですが、頭ではわかっているにもかかわらず実際に道具を使ってみると「道具を生かしきる」ことができていない自分に気がきます。補足として千種さんから二つ教わりました。たわしの

使い方は、利き手でない方に体重を預けることが大切で、毛先を押しつけてしまうと折れてしまって本来の役割が果たせないということ、また、サンドメッシュは真ん中の大きな面からではなく、端から使うと長持ちするということを教わりました。

道具の説明の後、頑固な汚れとにおいに向き合うことになりました。災害時の避難所としての機能も考えられているので、普通の学校のトイレ



の倍ぐらいの広さと小便器の数でした。よって今回は、一人がひとつの便器と向き合うことになりました。尿漉しは全部で9つ。しかも尿石がびっしり。それを一手に引き受けてくださったのが、久井さんでした。屋外の足洗い場でただただひたすら尿石に向き合われていました。その「ひたむき」な姿にまた感動しました。そのあともまだ掃除できていない場所に、次々と取り組まれていました。

トイレでは、千種さんにいろいろなことを教わりながらの掃除でした。いくつか、かいつまんで紹介します。

①サンドメッシュは端から使う

中央から使うと、中央が柔らかくなってしまい、端から使うことによって、全部を使い切ることができる。



②まずは排水溝の整備から

排水溝に道具を落とさないように、道具にはひもをつけて手首にかけておく。

③蛍光灯のマークの向きをそろえる。

④クエン酸で中性に

アルカリ性の汚れには、事前にクエン酸で中性にしておけば、汚れもとりやすい。

⑤タオルはゆっくりじわじわ

床の水分をふき取る時は、しっかりとひろげ、ゆっくりひくとタオルに水分を吸わせることができる。

⑥自分の体も大切に

足を冷やすと病気になりやすいので、スリッパなどを履いて掃除をする。

⑦相手に対して親切に

⑧ホースとスポンジで磨きあげ

水で流すだけではなく、スポンジでしっかりと洗い流すことが大切。

⑨手洗いの蛇口も外して掃除



片づけが終了したのち、教室に戻り交流会を開きました。今日の活動の感想やそれぞれの方が取り組んでおられる実践などの発表がありました。

- 鍵山相談役のメルマガにあったように「習慣が人格を作る」という言葉を実感した。普段の生活にひと工夫を加え、それを習慣化しなければならないと実感した。
- 今まで体験したり学んだりしたことは、点と点のままだったような気がする。掃除を通してその点と点を線にしていかなければならない。普段の生活に落とし込んでいきたい。
- 普段気になることもつい後回しにすることがある。手を抜かずに取り組むことが大切だと感じた。



- トイレにいたずらされたことがあったが、そのときにすぐ対応していなかった。自分ひとりでも何かできたのではないかな。
- 気づいたことを日常生活に落とし込むことを意識したい。
- 個人的に、ここ2週間ほどうまくいかないことがあったが、今日はリフレッシュできた。寒い中で汚れに向き合うのは一人では難しいが、こういう場だとできることがうれしい。子どもの心がざわざわすることもあるが、きれいなトイレに入って落ち着いて



くれたらいいなと感じた。

- 大きく広く掃除すると、掃除をした場所とそうでない場所との違いがわからなくなる。5センチ角ほどを丁寧に磨くことでその違いがわかる。今日はしっかりと便器に向き合うことができた。



- 癖になりそうな便教会で、楽しく感じられた。先生たちとの距離も近くなった。自分が幼いときは先生から怒られることが多かったので、どうしても先生との距離を感じていた。この年になっても距離を置いて先生たちを見ていたのが、今日はそう感じなかった。一緒に掃除をさせてもらった感じがする。掃除に限らず、いろいろな問題にぶちあたることもあるが、それを受け入れるかどうかが大切。受け入れるということは掃除と同じではないか。

今回は、多くの方とのご縁を感じました。ただ、その縁を強く強いものにしていくには、努力が必要だとも感じました。最近、心理学者アドラーに関する本もたくさん出ていますが、「最終的な悩みは『人間関係に関わる悩み』だ」と挙げています。確かに人と人のつながりがうまくいけば、悩みの多くは解決するように思います。私自身はトイレ掃除を通して「自分に気付く」「自分が変わる」「工夫する」「行動する」「思い切ってやってみる」など、いろいろなことを学べる機会になっています。その学びを通して、人とのつながりがより深く強いものになればと思います。大人であっても、子どもであっても・・・。



(文責：石塚 裕司)

